

# 日本の農業を救う カリスマ

連載③

提供・森之内農園



本市 九州エコファーマーズセンター  
熊合 木之内均さん

ここ10年で毎年約5万 エコファーマーズセンター  
人が農業に就いている。1がある。四十数軒の  
そのうち49歳以下は毎年 農家が会員。NPOは3  
約2万人。積極的な受け 人にサポートメンバー2  
入れを行っているのが 人の体制。これまで研修  
「公益社団法人日本農業 を含め1260人を受け  
法人協会」だ。加盟法人 入れ、独立は143人。  
は約2000社。注目の 農業法人の雇用就農は1  
団体の一つに熊本県合志 12人の実績がある。  
市采の「NPO法人九州 2003年11月発足。

## 年間200人が集まってくる理由



インターンシップ生らと事務局と  
農家の交流 (提供・木之内農園)

## 現役農家たちが農家に なりたい人を助ける

農業法人「木之内農園」均さん(61)は東海大学  
(村上進社長)を中心に 教授。大学連携で学生の  
農家7軒で設立された。 インターンシップの受け  
「木之内農園」はイチゴ 入れも行っている。  
観光農園、加工、販売所、 「現役農業者が新規就農  
通販などを手掛ける。創 者を育てていこうと農業  
業者で現・会長の木之内 者が立ち上がった」とは  
50過ぎの方まで。東京、

(受託)しているもの。 受け入れ農家と親しく  
無料で参加できる。 NPOの会員が、観光  
農園、果樹・畜産、有機農 後のアドバイス、機械を  
業など、さまざまな農業 借りたり、共同での作業  
をしていることから、イ など、就農後の経営や暮  
ンターンシップではいく らしても大きな力になっ  
つかの農業経営を見ても てもらえるからだ。後継  
らい、新規就農者から直 者のいない農地を継いで  
接、独立から販売までの ほしいとなる例もある。  
話を聞くこともできる。 「アスパラ、ミニトマト  
経営の方向が決まれ など施設栽培も多い。ハ  
ば、迎えてくれる農家で ウスは新設だと2000  
2年間の研修を経て独 万円くらいかかる。農家  
立。研修では国の「新規 のネットワークで中古ハ  
就農者育成総合対策・就 ウスを新規就農者に確保  
農準備資金」(年間15 することもしています。  
0万円を交付。最長2年 なかにはタダで譲るとい  
間)が活用されている。 うこともある。現在、中  
就農直後の経営確立を支 古ハウスも県の補助金が  
援する経営開始資金(年 あるので、それも利用す  
間150万円、最長3年 るということをしていま  
で短期間(2日以上6週 す」(吉村さん)

大阪も含めて九州各県か  
らもお見えになります。  
東京農業大学、農業高校  
からも参加があります」  
(吉村さん)  
農業実習は国のインタ  
ーンシップ制度がある。「  
学生・社会人が全国に約  
200ある農業法人など  
で短期間(2日以上6週  
間以内)体験できるもの。  
日本農業法人協会で19  
99年度から農林水産省  
も近くに確保するという  
の補助事業として運営  
形でやっています」(吉村  
さん)  
「受け入れ農家の方の近  
くに就農してもらい、家  
とられている。  
(取材・文II金丸弘美)  
II水曜掲載